

**卓越大学院プログラム 事後評価調書 プログラムの基本情報** [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名	京都大学	採択年度	2019	整理番号	1910
1	プログラム名称	メディカルイノベーション大学院プログラム			
	英語名称	Graduate Program for Medical Innovation			
	ホームページ (URL)	<a href="https://www.mip.med.kyoto-u.ac.jp/">https://www.mip.med.kyoto-u.ac.jp/</a>			
2	全体責任者 (学長)	<small>※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるもの場合は基幹大学）の学長名に下線を引いてください。</small> ふりがな みなと ながひろ 氏名 (職名) 湊 長博 (京都大学総長)			
3	プログラム責任者	ふりがな いさ ただし 氏名 (職名) 伊佐 正 (京都大学大学院医学研究科・研究科長)			
4	プログラムコーディネーター	ふりがな わたなべ だい 氏名 (職名) 渡邊 大 (京都大学大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻・教授)			
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野		
		関連する領域 (1)【任意】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域		
		関連する領域 (2)【任意】	なし		
		関連する領域 (3)【任意】	なし		
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	H		
		最も関連の深い区分 (中区分)			
		最も関連の深い区分 (小区分)			
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	I		
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】			
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】			
7	授与する博士学位分野・名称	博士 (医学)・博士 (医科学)・博士 (社会健康医学)・博士 (人間健康科学)・博士 (薬科学)・博士 (薬学) 付記する名称：メディカルイノベーション大学院プログラム			
8	学生の所属する専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	京都大学大学院 医学研究科 医学専攻、医科学専攻、社会健康医学系専攻、人間健康科学系専攻、薬学研究科 薬科学専攻、薬学専攻、医薬創成情報科学専攻 (R4より創発医薬科学専攻)			
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 <small>※ 該当する場合には○を記入</small>	10	本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 <small>※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。</small>		
連合大学院		共同教育課程	18名		
11 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
カリフォルニア大学サンディエゴ校 (アメリカ)、トロント大学 (カナダ)、国立台湾大学 (台湾)、分子腫瘍学財団研究所 (イタリア)、National Institutes of Health (アメリカ)、Max-Planck研究所 (ドイツ)、NeuroSpin (フランス)、国立研究開発法人理化学研究所、神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター、公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院、公益財団法人サントリー生命科学財団生物有機科学研究所、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ、デロイトトーマツコンサルティング合同会社、株式会社ミクシィスマートヘルス事業部、株式会社KBBM、株式会社MICIN、エーザイ株式会社、第一三共株式会社、中外製薬株式会社、旭化成ファーマ株式会社、大日本住友製薬株式会社、小野薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、杏林製薬株式会社、Chordia Therapeutics株式会社					

14 プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フナト(割合)
1	(プログラム責任者) 伊佐 正	イサ タシ		京都大学・大学院医学研究科・研究科長	博士(医学)	神経生理学	プログラムの統括	1
2	(プログラムコーディネーター) 渡邊 大	ワタナベ ダイ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	神経科学	プログラムの管理運営、コーディネート	1
3	萩原 正敏	ハギハラ マサトシ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・特任教授	博士(医学)	分子生物学、ケミカルバイオロジー、薬理学、解剖学	産官学連携教育担当	0.2
4	渡邊 直樹	ワタナベ ナキ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	薬理学・細胞生物学	教育研究推進担当	1
5	小川 誠司	オガワ セイジ		京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻/高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点・教授	博士(医学)	分子遺伝学・分子腫瘍学・血液内科学	産官学連携教育担当	1
6	中川 一路	ナカガワ イチロ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(歯学)	細菌学	教育研究推進担当	1
7	岩田 想	イワタ ソウ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(農学)	X線結晶学、膜蛋白質構造生物学	産官学連携教育担当	1
8	竹内 理	タケuchi リ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	免疫学・生化学	教育研究推進担当	1
9	篠原 隆司	シノハラ タカシ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	生殖生物学	教育研究推進担当	1
10	林 康紀	ハヤシ ヤスノリ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	神経科学	教育研究推進担当	1
11	成宮 周	ナルミヤ シュウ		京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻・特任教授	博士(医学)	薬理学	産官学連携教育担当	1
12	早乙女 周子	サトメ チカコ		京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻・特定教授	博士(薬学)	知的財産マネジメント	産官学連携教育担当	1
13	高折 晃史	タカオリ アキヒ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	血液学・腫瘍学・ウイルス学	国際連携教育担当	1
14	妹尾 浩	セノ ヒロシ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	消化器内科学	教育研究推進担当	1
15	平井 豊博	ヘライ トヨヒロ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	呼吸器病学	産官学連携教育担当	1
16	柳田 素子	ヤナギタ モトコ		京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻/高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点・教授	博士(医学)	腎臓内科学	国際連携教育担当	1
17	武藤 学	ムトウ マナブ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	腫瘍内科	産官学連携教育担当	1
18	栴島 健治	カハシマ ケンジ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	免疫アレルギー	教育研究推進担当	1
19	滝田 順子	タキタ ジュンコ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	小児科学、血液腫瘍学、分子生物学	教育研究推進担当	1
20	溝脇 尚志	ミゾワキ ナシ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	放射線腫瘍学	教育研究推進担当	1
21	松田 秀一	マツダ シュウイチ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	整形外科学	教育研究推進担当	1
22	村井 俊哉	ムライ トシヤ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(医学)	精神医学	教育研究推進担当	1
23	黒田 知宏	クロダ トモヒロ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(工学)	医療情報学	産官学連携教育担当	1
24	加藤 源太	カトウ ゲンタ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・准教授	博士(文学)	病院・医療管理学・医療情報学・医療社会学	産官学連携教育担当	1
25	森田 智視	モリタ サトシ		京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授	博士(保健学)	医学統計学	産官学連携教育担当	1
26	今中 雄一	イマナカ ユウイチ		京都大学・大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・教授	医学博士・Ph.D.・MPH	医療経済・経営・政策	教育研究推進担当	1
27	中山 健夫	ナカヤマ タケオ		京都大学・大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・教授	博士(医学)	公衆衛生学、疫学	産官学連携教育担当	1
28	奥野 恭史	オクノ ヤスシ		京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	博士(薬学)	創薬計算科学・データサイエンス	産官学連携教育担当	1

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フラット(割合)	
29	高桑 徹也	カカミ テツヤ	京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	博士(医学)	病理学	教育研究推進担当	1	
30	杉本 直三	スギモト ナオツウ	京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授					
31	山田 重人	ヤマタ シゲヒト	京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	博士(医学)	解剖学・発生学	教育研究推進担当	1	
32	青山 朋樹	アヤマ トモキ	京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	博士(医学)	再生医学、リハビリテーション医学、整形外科	教育研究推進担当	0.5	
33	澤本 伸克	サリモト ノブカツ	京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	博士(医学)	病態神経科学関連・神経内科学関連	教育研究推進担当	0.5	
34	高須 清誠	カスミ キヨセイ	京都大学・大学院薬学研究科・薬科学専攻・教授	博士(薬学)	合成化学・生物有機化学	教育研究推進担当	1	
35	竹本 佳司	タケモト ヨシシ	京都大学・大学院薬学研究科・薬科学専攻・研究科長	博士(薬学)	有機合成化学	教育研究推進担当	1	
36	加藤 博章	カトウ ヒロアキ	京都大学・大学院薬学研究科・教授	農学博士	構造生物学・構造薬理学	教育研究推進担当	0.5	
37	石濱 泰	イシハマ ヤスシ	京都大学・大学院薬学研究科・創発医薬科学専攻・教授	博士(薬学)	プロテオミクス・質量分析	国際連携教育担当	1	
38	竹島 浩	タケシマ ヒロシ	京都大学・大学院薬学研究科・薬科学専攻・教授	医学博士	生化学	教育研究推進担当	2	
39	小野 正博	オノ マサヒロ	京都大学・大学院薬学研究科・薬学専攻・教授	博士(薬学)	放射性薬品化学・分子イメージング	教育研究推進担当	1	
40	大野 浩章	オノ ヒロアキ	京都大学・大学院薬学研究科・創発医薬科学専攻・教授	博士(薬学)	有機化学・医薬品化学	教育研究推進担当	1	
41	土居 雅夫	ドイ マサオ	京都大学・大学院薬学研究科・創発医薬科学専攻・教授	理学博士	生理学	教育研究推進担当	1	
42	掛谷 秀昭	カケヤ ヒデアキ	京都大学・大学院薬学研究科・創発医薬科学専攻・教授	博士(工学)	ケミカルバイオロジー・天然物化学	国際連携教育担当	1	
43	山下 富義	ヤマシタ フヨシ	京都大学・大学院薬学研究科・統合薬学教育開発センター・教授	博士(薬学)	薬物動態学・ドラッグデリバリー	教育研究推進担当	1	
44	山中 伸弥	ヤマナカ シンヤ	京都大学・iPS細胞研究所・名誉所長	医学博士	幹細胞生物学	教育研究推進担当	0.1	
45	齊藤 博英	サイトリ ヒロヒデ	京都大学・iPS細胞研究所・教授	工学博士	生命工学	教育研究推進担当	0.5	
46	井上 治久	イノウエ ハルヒサ	京都大学・iPS細胞研究所・教授	博士(医学)	幹細胞医学	産官学連携教育担当	1	
47	高橋 淳	タカハシ ジュン	京都大学・iPS細胞研究所・所長	博士(医学)	神経再生	教育研究推進担当	1	
48	江藤 浩之	エトウ コウジ	京都大学・iPS細胞研究所・教授	博士(医学)	再生医学・血液学	教育研究推進担当	1	
49	川口 義弥	カワグチ ヨシヤ	京都大学・iPS細胞研究所・教授	博士(医学)	発生生物学	教育研究推進担当	0.5	
50	斎藤 通紀	サイトリ ミチノリ	京都大学・高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点/大学院医学研究科・医学専攻・医科学専攻・教授	博士(医学)	細胞生物学・発生生物学	国際連携教育担当	0.5	
51	上野 英樹	ウエノ ヒデアキ	京都大学・大学院医学研究科・医学専攻・医科学専攻・教授/高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点・教授	博士(医学)	免疫学	国際連携教育担当	1	
52	河野 優子	コノ ユウコ	カリフォルニア大学サンディエゴ校・消化器内科臨床教授・放射線科臨床・教授	博士(医学)	肝臓移植内科	国際連携教育担当	1	
53	Charles Boone	チャールズ ブーン	University of Toronto・Donnelly Centre for Cellular and Biomolecular Research・Professor	PhD in Biology	Chemical Genomics	国際連携教育担当	1	
54	Hsueh-Fen Juan	シュエ フェン ジュアン	National Taiwan University・Department of Life Science・Professor	Ph. D	Systems Biology	国際連携教育担当	1	
55	向山 洋介	ムコヤマ ヨウスケ	National Institutes of Health (USA), National Heart, Lung, and Blood Institute・Cell and Developmental Biology Center・Senior Investigator (tenured)	理学博士	発生生物学(神経・血管・免疫発生学)	国際連携教育担当	1	

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポスト(割合)	
56	伊藤 博	イトウ ヒロシ	マックスプランク脳科学研究所・リサーチグループリーダー	MD PhD	システム脳科学	国際連携教育担当	1	
57	Denis Le Bihan	デニレビアン	NeuroSpin and Research Director Atomic Energy Commission (CEA)・Founding Director	MD PhD	Development of non-invasive Imaging	国際連携教育担当	0.5	
58	武藤 誠	タケトリ マコト	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院・所長	博士(医学)	腫瘍学	産官学連携教育担当	0.5	
59	土橋 昌	トハシ マサル	株式会社エス・ティ・ティ・データ・技術革新統括本部	修士(情報)	システム開発・オープンソースソフトウェア・分散処理基盤	産官学連携教育担当	1	
60	橋口 昂矢	ハシグチ タカヤ	株式会社ミクシィ スマートヘルス事業部	高度専門士(工業専門課程)、工学(修士)	自然言語処理、画像処理、情報検索、機械学習	産官学連携教育担当	0.5	
61	桐山 瑤子	キリヤマ ヨウコ	株式会社MICIN・レギュラトリアフェアーズ	学士(医学)	社会医学・薬事(医療機器)	産官学連携教育担当	0.5	
62	高石 巨澄	タカシ キョウジ	第一三共株式会社・研究統括部・スペシャルティ第一研究所第一グループ・グループ長	理学博士	希少疾患治療薬の創薬薬理	産官学連携教育担当	0.5	
63	巾下 広	ハバシタ ヒロム	小野薬品工業株式会社・執行役員・研究副本部長	薬学博士	創薬研究全般	産官学連携教育担当	0.5	
64	森下 大輔	モリシタ ダイスケ	Chordia Therapeutics株式会社・Senior Director	博士(薬学)	創薬科学、薬理学	産官学連携教育担当	1	
65	大槻 元	オオツキ ゲン	京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻・特任教授	博士(理学)	精神疾患の神経科学、創薬医学	産官学連携教育担当	0.5	
66	中島 貴子	ナカジマ タカコ	京都大学・医学部附属病院 次世代医療・iPS細胞治療研究センター・教授	博士(医学)	早期開発・腫瘍内科	産官学連携教育担当	0.5	
67	通山 潔	トオヤマ キヨシ	京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・特任助教	学士(医学)	細胞生物学	教育研究推進担当	9	
68	鈴木 忍	スズキ シノブ	京都大学・大学院医学研究科「医学領域」産学連携推進機構・特任教授	薬学博士	産学連携マネジメント	産官学連携教育担当	1	
69	青井 遥	アオイ ハルカ	デロイトトーマツコンサルティング合同会社・ライフサイエンス&ヘルスケアマネジャー	修士(情報科学)	情報科学	産官学連携教育担当	1	
70	木村 禎治	キムラ テイジ	エーザイ株式会社・執行役 チーフディスカバリーオフィサー	博士(薬学)	神経変性疾患創薬	産官学連携教育担当	0.5	
71	志水 勇夫	シミズ ヨウヂ	大日本住友製薬株式会社・執行役員・リサーチディレクター	薬学博士	創薬薬理研究(ニューロサイエンス)	産官学連携教育担当	0.5	
72	田中 正人	タナカ マサト	株式会社KBBM・代表取締役社長	学士(法学)	研究開発・経営	産官学連携教育担当	1	
73	佐藤 文彦	サトウ フミヒコ	公益財団法人サントリー生命科学財団生物有機科学研究所・所長	博士(農学)	生命科学・(植物)分子細胞生物学・代謝工学	産官学連携教育担当	0.5	
74	生田 宏一	イクタ コウイチ	京都大学・大学院医学研究科・医学教育・国際化推進センター・大学院教育部門・特任教授	博士(医学)	大学院生教育、免疫制御学	教育研究推進担当	1	
75	林 眞理	ハヤシ マコト	The FIRC Institute of Molecular Oncology (IFOM)・Joint-Research Laboratory・Chromosome Instabilities Unit Group Leader	博士(理学)	分子生物学	国際連携教育担当	0.5	
76	及川 信宏	オカワ ノブヒロ	中外製薬株式会社・シニアディレクター(創薬化学研究部・研究員)	博士(農学)	創薬化学	産官学連携教育担当	0.5	
77	影山 龍一郎	カゲヤマ リュウイチロウ	国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター・センター長	医学博士	発生生物学	産官学連携教育担当	0.5	
78	田口 明彦	タケグチ アキヒコ	神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター・脳循環代謝研究部・部長	博士(医学)	神経内科・再生医療	産官学連携教育担当	0.5	
79	和田 康弘	ワタ ケイヒロ	旭化成ファーマ株式会社・医薬研究センターモダリティ研究部・部長	博士(薬科学)	創薬化学・有機合成化学	産官学連携教育担当	0.5	
80	石山 順一	イシヤマ ジュンイチ	杏林製薬株式会社・創薬本部・執行役員 CSO 創薬本部長	薬学博士	薬理学	産官学連携教育担当	0.5	
81	榎富 直哉	エノトミ ナオヤ	田辺三菱製薬株式会社・創薬本部長	Ph. D	創薬分野	産官学連携教育担当	0.5	

## 成果の概要【2ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

## ① 特筆すべき成果のあった事項

- (1) 総長の強いリーダーシップの下に大学院教育改革を推進する全学組織として、2021年度に大学院教育支援機構を発足させた。本学で採択されている横断型大学院プログラム（卓越大学院プログラム3件、及び博士課程教育リーディングプログラム5件）を統括するとともに、その先進的な取り組みを全学へ波及させる教育改革を推進している。その成果として、2023年度より大学院教育支援機構教育コース（2025年度には全8コース）を開講し、全学の大学院生を対象に、学際的な研究力の向上と多様なキャリア形成の支援を行う教育プログラムの提供を開始した。
- (2) 大学院教育支援機構の発足により、本プログラムを含む横断型大学院プログラムによる大学院教育改革と博士学生の学修支援である大学フェローシップ創設事業（後に機構SPRINGプログラムに統合）、機構SPRINGプログラムの有機的連携が可能となった。
- (3) 大学院教育支援機構が、2022年度から毎年度主催している卓越ワークショップは、プログラムの学生や教員だけではなく、総長をはじめとする大学執行部も参加し、異分野間の研究交流のみならず、大学院教育研究について意見交換を行う貴重な機会となっている。
- (4) 本プログラムでは、複数メンター制度（分野指導教員と分野外の副指導教員）と多段階QEを整備した結果、若手メンター教員が調査委員として参画する医科学専攻の修士論文審査会、医学専攻博士課程／医科学専攻博士後期課程における中間ヒアリングが実現した。その結果、本プログラムと整合性のある、専門性の高い修士・博士課程の学識・研究力の評価が確立された。
- (5) 本プログラムにより、専門領域ごとに実践的な研究能力の修得を目的とする大学院教育コースの整備を行った。本プログラムが強化ポイントとして掲げる「情報テクノロジーの高度な活用」「マルチモーダル医薬の研究開発」の観点から、人間健康科学系専攻では「メディカルAI」「リハビリテーション医学」「ケアリング医学」の3コースを新設し、医科学専攻では、従来の「ゲノム・オミックス統計解析」コースを拡充して「医療DX」コースに再編した。一方、薬学研究科は、2022年に本プログラムとの整合性を重視した5年一貫制博士課程「創発医薬科学専攻」を設置し、その特徴を活かした「創薬基盤科学」コースを開講した。以上のように、各専攻は、本プログラムと連携して効果的に大学院教育改革を推進している。
- (6) 附属病院の次世代医療・iPS細胞治療研究センター等を統括する先端医療研究開発機構（iACT）教員が中心となって、キャリアパス支援・社会実装スキルアップ科目として「橋渡し研究・臨床研究マネジメントコース」を開講した。橋渡し研究・臨床研究に必要な多様なマネジメント能力育成を目的としており、iACTが大学における医療開発支援で培ったノウハウを生かしてOJT（On-the job training）を実施するなど実践的な内容を提供している。
- (7) 履修生を含む若手研究者の情報発信、研究交流の場として、「医薬系研究交流サロン」を開催している（2020年から計4回実施）。現在では、生命科学研究所など他部局も参加する本学のライフサイエンスの研究者が一堂に会する研究交流の場となっている。第2回は、企業によるセッションを設け、学内外の共同研究と新たな研究促進に貢献した。
- (8) コロナ禍の対策として、講義に本学情報環境機構の学習支援システム（PandA）とZoomを活用してオンライン/ハイブリッド型の講義システムを整備し、さらに日本免疫学会等の学会運営にも利用される実用性の高いオンライン学会システムの開発を行った。
- (9) 国内外で活躍する本学出身の研究者を講師として招き、最先端の研究に加えてキャリア形成について学ぶ「MIPセミナー」を企画し、シリーズ化した（これまでに17回開催）。本セミナーを契機に、履修生と講演者が共同研究を開始する等、新たな研究交流の創出に貢献している。
- (10) 履修生が海外のイノベーション・エコシステムを体感し、多様なセクターで活躍する海外研究者との交流や意見交換を行うことを目的として、MIP海外派遣選抜プログラム（GTEP）を企画・実施した。米国サンディエゴ（2022年度）、米国ボストン（2023年度）、ドイツ（2024年度）にそれぞれ数名の履修生を派遣した結果、訪問先の製薬企業から共同研究等の打診を受けるなど、双方にとって意義のある成果が生まれつつある。
- (11) 最先端の医学研究とその社会実装に向けた研究を推進している米国UCSD、ペンシルベニア大学医学部と研究交流を促進するために、2020年～2021年には京都大学-UCSD/Center for Novel Therapeuticsセミナー（計11回）を開催し、2024年にはペンシルベニア大学医学部 Institute for Translational Medicine and Therapeutics（ITMAT）のメンバーを京都へ招聘し、ITMT-京都大学国際シンポジウム「Biology of Human Diseases Comes of Age」を開催した。
- (12) 東北大学、名古屋大学、大阪大学の卓越大学院プログラムと連携し、2024年度に名古屋大学で開催された「生命系卓越大学院共創シンポジウム」に参画した。このように大学を横断したプログラム間の連携、研究交流が発展しつつある。2025年度は本学で開催することが決定している。

## ② 計画通り進んでいる事項

2019年に採択されて以降、本プログラムの運営体制の確立、履修生の選抜、カリキュラムの整備と様々な人材育成プログラムの推進、修了審査制度の確立など、当初の計画通りに進んでいる。

- (1) 本プログラム採択後より、全学組織として学位付記型プログラム（卓越大学院プログラム及び博士課程教育リーディングプログラム）の学位の質保証及び運営を統括する大学院横断プログラム推進センターの下で開催される大学院横断プログラム運営委員会を通じて、他のプログラムと履修生の状況及び全学組織としての大学院教育改革について情報共有を行なっている。なお2021年10月に大学院教育支援機構の設置に伴い、**大学院横断プログラム運営委員会**は支援機構の下で運営・開催されている。
- (2) 本プログラム教授会、運営委員会、各種委員会を設置した。各会議の構成員には参画研究科、専攻の教員が関わり、研究科・専攻を横断した一体的運営と研究科との緊密な連絡を実現している。また本プログラム推進を支援する事務室を開設した。
- (3) 部局を横断して大学院カリキュラムの調整を実施するカリキュラムワーキンググループと連携し、本プログラムのコースワークとして「コア履修科目群（コア医学教育コース及び大学院教育コース）」「キャリアパス支援・社会実装スキルアップ科目群」を整備した。
- (4) 本プログラムのウェブサイトを開設し、各専攻の大学院説明会では資料配布及びプログラムの概要及び履修生募集について説明を行っている。
- (5) 本プログラムの3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を制定した。プログラムのウェブサイトにより公開し、履修者選抜やプログラム修了に求められる基準を明示している。3ポリシーに基づき入学審査、QE（Qualifying Examination）、修了審査等の評価にかかる基準を定め厳正に運用している。
- (6) 学位の質の保証を目的として、**多段階QE** および**副指導教員（メンター）制度**を導入し、メンターによる評価を通じて、履修生の研究進捗確認を行っている。多段階QE およびメンターによる指導の基盤となる独自の**オンライン・ポートフォリオシステム**の立ち上げを行った。
- (7) 履修生の経済的支援として、研究計画提案・申請に基づくRA及びRF制度を整備した。また履修生の学修支援として、**（異分野）共同研究プロジェクト及びインターンシップ制度**を整備した。
- (8) 本プログラムの自主的なPDCAサイクルとして、毎年度、**学生アンケート及び外部評価委員会**を行っている。学生アンケートからは、コロナ禍でアルバイトなどに制約を受ける履修生の経済的支援として、RAだけでなくTAの導入や研究資料の購入支援を実施した。
- (9) 優秀な学生の獲得に努め、**2020年度の第1期生募集以来、定員充足（20名/年）に成功**している。
- (10) 当初に設定した**数値目標（KPI）**の全ての項目について、毎年度目標をほぼ達成している。

## ③ 改善が必要な事項

概ね当初計画に基づき実施し、本プログラムによる人材育成と大学院改革は想定以上の成果を上げつつある。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部の計画は延期としている。

- (1) **インターンシップ**：本プログラムには附属病院内や病院キャンパス内で活動している履修生が多く、病院の指針に従う必要があり、コロナ禍でのインターンシップ実施は不可能であった。ただし、インターンシップは本プログラムの修了要件において選択必修の扱いとなっている。インターンシップ、（異分野）共同研究プロジェクトのいずれかを選択できることから、大半の学生が（異分野）共同研究を実施することで対応した。
- (2) **令和近衛塾**：オンサイト開催による有料の会員制エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラムである。講師には、本プログラムに関連する世界的に著名な研究者を迎えることで、企業のリーダー層に対して本プログラムの人材育成に対する理解を深め、将来的な支援強化につなげることを期待している。コロナ禍の影響により開催が困難となり、またコロナ禍収束後は、オンラインシステムの整備が進んだこともあり、現在まで開催を見送っている。なお、本プログラムでは、支援期間終了後に、一部の教育活動をコンソーシアム事業に移管することが決定している。「近衛塾」についても、同事業の一環として実施することが決定されている。

## ④ プログラムとしての今後の見通し

上述のとおり、当初計画していたプログラム運営体制が確立され、最先端の医学研究の推進と、その成果の社会実装に関わる多様なセクターへの博士人材の輩出が着実に進んでいる。全学組織である大学院教育支援機構の設立に加え、本プログラムと連動した医学研究科および薬学研究科における大学院改革も順調に進展しており、制度的には補助期間終了後も教育内容を継続することが可能である。また、大学院教育支援機構のもとで、**SPRINGプログラム**および**次世代AIプログラム**といった**新たな経済的支援制度**も開始されており、今後も持続的かつ発展的なプログラム運営が期待される。さらに、本プログラムを基盤として医科学専攻の改組を進めており、2027年度からは、本プログラムと高い整合性を有する5年一貫制博士課程への移行を予定している。